

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4790900049		
法人名	株式会社 ころこ		
事業所名	グループホームころこの里		
所在地	沖縄県名護市字伊差川1054番地		
自己評価作成日	平成 26 年 7 月 31 日	評価結果市町村受理日	平成 26 年 10 月 27 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=4790900049-00&amp;PrefCd=47&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=4790900049-00&amp;PrefCd=47&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F		
訪問調査日	平成26年9月16日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

・当事業所は徒歩5分程の場所に地区公民館があり、区の諸行事や催し物の際には積極的に参加し、利用者の方々と地域の方々との交流を図っております。地区公民館周辺には公園や遊歩道、桜並木もあり、日頃の散歩や余暇活動にも活用しています。事業所では行事への参加のみならず、地区の大清掃、公園の清掃にも参加し、地域に密着できる施設を目指しています。隣接する有料老人ホームとの利用者との日々の交流、合同での施設、地域行事への参加で親睦を深め、夜間の緊急時の協力体制などの整備でも連携を図っております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

グループホームと併設された有料老人ホームの間に中庭があり、コの字型の平屋造りの建物は、利用者が四季を感じゆったりと過ごせる環境で、創設者の思いがこめられた施設である。BBQセットや宿泊設備を整え、遠方からの来客なども訪れやすいように配慮している。経営理念・経営方針を基盤に介護理念、今年目標を職員それぞれが理解、共有し、利用者の日々の暮らしをその人らしく生き生きと暮らせるよう、地域と交流を盛んに行い、地域に開かれた事業所を目指している。質の高いサービスを提供するため、人材育成に努め職員が安心して働けるよう職場環境を整えている。職員の高い専門能力(認知症介護指導者)によりセンター方式を活用したきめ細かいアセスメントを行い、利用者の思いに寄り添い個別ケアを実践している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

確定日:平成26年10月23日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・毎朝の朝礼での理念の唱和、運営推進会議内容の周知、地域行事への積極的な参加等で地域との密着を意識づけ、理念を共有し実践している。	法人の経営理念・経営方針を基に職員が言葉を出し合い作成した介護理念を、職員が手をつなぎ唱和することでコミュニケーションが図られ理念を共有している。さらに今年目標を掲げ、いずれもフロアに掲示し、職員は日々のケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・運営推進会議で施設、市、地域の行事の情報交換を行い、職員、利用者共に積極的に参加している。 ・施設での行事の際は地域の老人会、保育園、サークル等に呼びかけ、余興の披露や交流を深めている。	地区の運動会、豊年祭、区民納涼祭など地域の行事に利用者と参加すると共に清掃活動にも職員が参加している。運営推進会議で認知症の勉強会や地域住民に認知症講演会の情報提供に努める等、啓蒙活動に取り組んでいる。保育園児が散歩の途中でふらりと立ち寄るなどの関係が出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域行事へは積極的に参加、協力し、可能な限り入居者も参加し、地域で暮らす一員としての理解を深めてもらうよう心がけている。 ・運営推進会議で認知症の理解をしてもらえるよう勉強会を行っている。 ・利用者、ご家族、住民参加で認知症を学べる講演会の情報提供、参加を呼びかけている。 ・今年度は、沖縄県、認知症介護指導者会と協力し講演会を予定しており、利用者、ご家族、区民への参加を予定している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月に一回、運営推進会議を開催し、地域、市の行事、情勢等の情報を共有し、事業所の運営状況や利用者の生活状況を報告で情報を共有し、サービス向上に活かしている。	会議は定期的に行われ、事業所の活動状況や利用者の状況、事故報告を行い、委員から地域行事の情報を得ると共に、公園清掃への協力依頼や、鯉のぼり作成の依頼、防犯等情報交換をしている。会議に合わせ消防訓練を行う等積極的に関わられるよう働きかけている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・担当者へ運営推進会議、施設内行事への参加を呼びかけ、事業所の実情やケア内容を周知している。 ・市が開催する地域支援ネットワーク会議、連絡会、研修会へ積極的に参加している。	事業所の行事には担当部課長、係長等が参加している。年4回、市主催の地域支援ネットワーク会議参加や県外から講師を招き先進事例の発表会等の研修に参加している。市から災害時の緊急避難場所の指定を受け、台風情報などはFAXや電話で問合せが来る等、協力体制を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・管理者や職員が関連研修会等へ参加できる体制を整え、積極的に参加している。 ・施設内でも身体拘束についての勉強会を開催している。 ・施設内バリアフリー構造、屋外に数箇所にも談話スペースを設け、販売機も設置し、出入りを自由にしていく。	身体拘束はしない方針の下、職員勉強会でマニュアルの読み合わせを行い、職員の理解を深めている。玄関や、居間、居室の掃き出し窓は施錠せず、契約時に家族へリスク等説明している。外へ出た場合は屋外に設置された自動販売機や畑で気分転換を図る等支援し、併設の施設とも情報を共有し見守りの相互協力体制を構築している。	

沖縄県(グループホームこころの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・管理者や職員が関連研修会等に参加できる体制を整え、積極的に参加している。 施設内でも虐待防止についての勉強会を行っている。 ・関連関連文章等を回覧し、周知徹底を図り、職員相互の聞き取りを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・管理者や職員が関連研修会等へ参加できる体制を整え、積極的に参加している。 ・支援が必要だと思われる利用者、家族に対し、制度の説明を行う等の支援をしている。 ・入居後も権利擁護事業の活用を継続し、安心して暮らせるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入居前に事前オリエンテーションを行う。利用者のみならず、家族を必ず同席させ、十分に説明し理解された上で締結、解約を行う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議を実施し、利用者、家族の代表を参加させ、意見を表せる機会を設けている。 ・意見や要望を運営に反映させる為、アンケート調査実施や意見箱を設置している。	運営推進会議で意見を表せる機会があり、その他意見箱の設置やアンケート調査を行っている。「刺身が食いたい」には、忘年会で握り鮓が提供され、沖縄そばの要望には、毎月献立に取り入れる等、反映している。家族からの施設外レクの要望には、年1回スポーツ大会を開催し対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎朝の申し送り、月1回の全体会議、スタッフミーティング、リーダー会議の開催で職員の提案や意見を聞く機会を設けている。	月1回の法人全体ミーティング、GH職員会議、リーダー会議で職員の意見を聞く機会としていて、口腔体操の実施の意見を反映している。代表、管理者との個人面談で資格取得や研修参加等の意見が出て勤務調整をしている。また、健康診断の結果を重んじ、再診の必要な職員を追跡調査している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・毎年度、職員個々の実績、勤怠状況の評価を行い、諸手当、給与の見直しを行っている。 ・健康診断後の健康状態の把握、受診の推進、有給休暇の消化推進等にあたっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・スキルアップに必要な資格、研修会の案内や情報提供、資格取得を推進している。 ・受講希望者へは勤務の調整を行い、費用負担についても、分納の相談に応じている。		

沖縄県(グループホームこころの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県、市、医師会等が主催する研修会、地域支援ネットワーク会議等への参加している。</li> <li>・施設内研修会で他事業所の職員を講師に招いたり、他施設での研修会に参加、施設での講習会に他施設の職員を招いたりする事で交流の場を設けている。</li> </ul>		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初回面談のみならず、入居時、入居後も必要に応じ、面談し、本人、家族のニーズの把握に努めアセスメントを行っている。</li> </ul>		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初回面談のみならず、入居時、入居後も必要に応じ、面談し、本人、家族のニーズの把握に努めアセスメントを行っている。</li> </ul>		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入所前、入所時を含め、本人、家族と話し合い、必要としているものの優先順位を決め対応している。</li> </ul>		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の食事の準備、洗濯、買い物、花木の手入れ等の作業を共に行い、地域行事へも共に参加し、地域の方々とも交流している。</li> <li>・利用者同士や職員と寛げるよう、団欒、雑談の場を設け、利用者の希望に沿い、外出の支援等も行っている。</li> </ul>		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活状況や、健康状況の報告等を行っている。遠方で暮らす家族へは利用者と電話で会話できるよう支援している。</li> <li>・面会状況を把握し、面会を促し、施設内行事への参加を呼びかけている。</li> </ul>		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の希望に沿い、自宅、地域行事、馴染みの地域の商店やスーパー、美容室へ出かける際の支援を行う。</li> <li>・地域の老人会、宗教団体等の訪問の際は、団欒できる場を設定し、ともに寛げる環境設を配慮している。</li> </ul>	<p>利用者の地域社会との関係性は、アセスメントで把握し、出身区の方々の友愛訪問や、宗教仲間の訪問を継続できるよう支援している。クリスマス行事への参加や馴染みの理髪店、美容室へ個別の送迎を支援している。旧宅やその付近をドライブするなどの支援を行い、関係が途切れないようにしている。</p>	

沖縄県(グループホームこころの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・生活状況、ニーズを把握し、利用者間の交流関係に応じ、居室の移動、座席の配置等に配慮している。 ・少数の利用者同士が気兼ねせず、団欒、雑談できるコーナーを数箇所設置している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退去時には、医療機関、施設、家族へ必要な情報を提供し、家族へは電話連絡し、経過を把握する等、連携を図っている。 ・退去後もご家族と連絡をとり、必要に応じ相談、助言を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・アセスメントを行い、本人の希望や意向の把握に努めている。	センター方式の「私の暮らし方シート」で詳細なアセスメントを行い、意向の把握をしている。日ごろの会話から海に行きたい、ドライブに行きたい等把握しケアに活かしている。デイケア(医療)に行きたいという利用者に主治医と相談し利用を継続している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・アセスメントを行い、暮らしのシートを活用し、生活歴、馴染みの暮らし方等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・毎日の日課や健康状態を把握し、記録に残し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・介護認定更新時や見直しが必要な場合は、本人、家族、関係者と話し合い、介護計画に反映している。	半年に1回モニタリング、サービス担当者会議を行い、介護計画は定期と必要に応じ随時に作成している。詳細なアセスメントのお陰で、訪問販売での買い物支援、妻の入院する病院での面会、自助具を利用したの生活リハビリメニューなど、利用者、家族の意向が個別支援計画に反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の記録を個別に記入し、情報を共有し、ケア実践や介護計画の見直しに活かしている。		

沖縄県(グループホームこころの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・本人や家族状況、ニーズに対応し、医療機関のデイケア、通院リハ、介護タクシーサービス等、多機能に利用できるよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・近くに地区公民館があり、公園等も隣接しており、日々の余暇活動にも大いに利用できるように努めている。・本人が暮らしていた地域への行事や催し物への参加も希望に添い支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入居前のかかりつけ医の受診の希望があれば継続できるよう支援している。・家族が受診を付き添う場合は必要な情報を提供し、家族が対応できない場合は付き添いを行っている。その際、受診の結果や、経過内容を報告している。・受診予約日を管理し、ご家族と連携が図れるよう支援している。	利用者は、希望により入居前からのかかりつけ医や協力医による訪問診療を受診している。訪問診療以外の受診は家族対応としているが、必要に応じ代行や同行、送迎等を支援している。受診に際しては、事前にFAX等で医療機関に情報提供し、結果は家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・日々の健康状態の観察を行い、受診時に必要な情報を提供し、医師、看護師からの指示を仰ぎ、受診の指示がある場合は対応できるよう体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	・入院時には医療機関へ必要な情報を提供し、退院に向けてのカンファレンスには積極的に参加し、師長、MSW等病院関係者との連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・定期受診が確実に受けられるよう、家族と協力し、早期発見に努める。日頃より嘱託医、かかりつけ医と連携を図り、重症化し医療ニーズを必要とする場合は、医師より病状の説明、事業所でできる事を十分に説明し、利用者、ご家族に意向を尊重し、必要な支援を行う。	重度化や終末期に向けては、入居時に利用者や家族に意向を確認し、変化に応じてかかりつけ医や協力医と連携し、事業所の対応を説明して行く事になっている。前回の外部評価で事業所の現状に即した方針の検討を目標に掲げたが作成には至っていない。	利用者や家族が安心して納得した重度化や終末期を迎えられるよう、事業所の現状に即した方針を作成し、説明、共有する事が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・施設内でもAED取扱い、急変時対応の勉強会等を定期的に行い、施設外での救急対応の研修会等、参加している。・嘱託医医療機関より、指導を受けられる体制を整えている。		

沖縄県(グループホームこころの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消防避難訓練等を年2回行い、地区公民館、近隣住民へも参加を呼びかけ、連携を図っている。</li> <li>・年一回、夜間想定訓練の際は運営推進委員会の方々も参加し、協力体制を築いている。</li> <li>・全職員の緊急時を想定した連絡網を作成し、連絡法の訓練も同時に行っている。</li> </ul>	<p>年2回、併設施設と合同で消防署立ち会いの下、運営委員や地域住民も参加し、昼夜を想定した消防避難訓練を実施している。防災設備の整備や点検を実施し、電燈や食料等の備蓄や火災・水害等各種災害対応マニュアルも整備されているが、訓練記録が作成されていない。</p>	<p>消防避難訓練終了後は、実施記録を作成し、日頃の安全対策や次回の訓練に活かしていく事が望まれる。</p>
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人格を尊重し、気分を害さないよう、丁寧な言葉かけに努めている。</li> <li>・個々のコミュニケーション手段の沿った言葉かけを配慮している。</li> </ul>	<p>事業所は、理念に「利用者の尊厳」を掲げ、毎年「コミュニケーションと接遇」の研修や倫理マニュアルを読み合わせると共に「ケアの心得」をトイレに掲示し、職員の意識向上に繋げている。また「職員の言葉かけについて」利用者アンケートを実施し、「上等」と高い評価が得られている。</p>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々、本人の意思確認を行い、希望を聞きながら、ケアにあたっている。</li> </ul>		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できる限り時間の縛りをなくし、職員の都合にとらわれず、本人のペースで食事や入浴等が行えるよう、声かけしながら支援している。</li> </ul>		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・清潔を心がけ、好みの色の服や履物を取り入れ、希望があれば美容室や理容室に出かけている。</li> <li>・身だしなみセットや、お化粧品を揃え、ヘアアクセサリ等の利用でおしゃれができるよう支援している。</li> <li>・毎朝、整容、整髪の声かけを行い、支援している。</li> </ul>		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・畑の収穫を共に行う。収穫物や差し入れがある場合は、材料に用い、好みを聞き、メニューを決める。</li> <li>・利用者と共に野菜の下ごしらえ、簡単なおやつ調理作業、準備、片付けを行っている。</li> <li>・できる限り、職員も利用者と共に会話を楽しみながら食事をいただくよう心がけている。</li> </ul>	<p>食事は、利用者の希望や食材を見ながら献立を決め、3食事業所で調理しているが、昼は併設施設からの配食を現在模索している。利用者は、食材の買い出しや下ごしらえの他、おやつ作りに参加している。食事は、陶器に盛り付け、職員も一緒に会話をしながら摂っている。</p>	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の食事、水分量のチェックを行う、利用者の状態に合わせ、食事形態、摂取量を調整している。</li> <li>・その日の体調に応じ、メニューを変えたり、好物を取り入れる等の配慮を行っている。</li> <li>・嗜好の聞き取りを行い、日々の食生活に反映している。</li> </ul>		



沖縄県(グループホームこころの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎食後、声かけし、口腔ケアの促しを行う。十分にできない利用者へは支援を行う。</li> <li>・夕食後、就寝前は義歯を取り外し管理、洗浄液に浸け清潔保持に努めている。</li> </ul>		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できる限りトイレへ誘導し、排泄の失敗を予防している。夜間もできる限りトイレ誘導、ポータブルトイレの設置を行い自立に向けた支援を行っている。</li> </ul>	<p>日中の排泄は、2時間おきの声掛けや利用者のサインを把握しトイレ誘導を支援している。夜間は、安眠に配慮し、オムツ使用の利用者1名以外は、希望や力に応じてトイレ誘導やポータブルで対応している。居室の近くにトイレが設置され、利用しやすく排泄の自立者が2名いる。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の体操、散歩、レク等で適度な運動時間を設けている。</li> <li>・毎日、排便の有無を確認し、できる限り自然に排便できるよう、食事やおやつメニューの工夫、水分摂取の促しを行っている。</li> <li>・長期の便秘は医師へ上申し、適切な指示のもと内服薬を服用している。</li> </ul>		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・希望があれば毎日の入浴も支援している。その日の希望に応じれるよう、入浴の時間帯は決めていない。</li> <li>・入居時に異性、同性介護の意思確認を行い、尊重し、支援している。</li> </ul>	<p>入浴は、「一番に入りたい」や「毎日入りたい」、「夜入りたい」等の利用者の希望に柔軟に対応している。入浴拒否には、本人が納得するまで話しかけ不安や負担感の解消に努めている。脱衣所は、冷暖房設備が整備され、浴室への移動時はタオルで体を覆う等、羞恥心に配慮している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日中はできる限り、活動時間を多く設け、生活パターンが身につく夜間良眠できるようにしている。</li> <li>・居室以外にも休息や仮眠がとれるスペースを設けている。心地良く過ごせるよう空調管理にも気を配っている。</li> </ul>		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内服管理、服薬の支援を行う。</li> <li>・薬手帳、薬剤情報の活用にて処方薬の副作用、用量の確認を行う。処方の変更がある場合は、経過観察し、主治医へ情報を提供する。</li> <li>・薬剤師により助言、アドバイスをもらえる体制を整えている。</li> </ul>		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家事、散歩、買い物、庭いじり等、本人が楽しみ生きがいを感じる事へ取り組めるよう支援している。</li> <li>・ご家族と協力し、買い物を支援し、嗜好品は望み通り愛用させている。</li> <li>・暮らしのシートアセスメントを実施し、生活歴等の把握に努めている。</li> </ul>		



沖縄県(グループホームこころの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・買い物や、近隣への散歩はできる限り、その日の希望に沿って支援している。・自宅訪問や家族への面会、地域行事への参加等の遠方への外出は事前に計画を立て、家族、地域の方々とは相談しながら計画している。	事業所は、利用者のその日の希望に沿って周辺の散歩や買い物等を支援している。また地域の行事や季節の花見、遠出のドライブ等を計画し、気分転換を図っている。家族の協力を得て外食やふるさと訪問、理美容室利用の他に入院中の家族の見舞いを個別に支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・買い物時の外出の際は支援している。管理能力のある利用者は所持させ、お金を使えるよう支援している。・買い物に頻繁に出かけられない利用者に関しては、パン、ヤクルト、移動売店等を依頼し、訪問販売を利用して買い物を楽しませている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・希望があれば、電話や、手紙等のやり取りの支援を行う。また、家族が遠方在住で殆ど面会がない利用者へは定期的に電話で声を聞き、安心してもらう等の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・四季折々の花木を植え、野菜を育てている。水撒きや草むしり等利用者と共にしている。・利用者と共に季節を楽しめる装飾品を作成し、掲示している。・共用スペースは明るく開放的で清潔を心がけている。キッチン是对面式で会話をしながら作業し、コミュニケーションを図りながら、毎日の食事を楽しんでいる。・施設内の数箇所に温度、湿度計を設置し、不快なく過ごせる室温管理を心がけている。	事業所内は、明るく、清掃や換気、室温管理も行き届き、気になる臭いもなく快適である。また室内には、旧暦、新暦の手作りカレンダーや季節の飾りが施され、広々とした居間や和室と繋がるデッキには、利用者が思い思いに過ごせるようにソファや椅子を配置している。屋外にも談話スペースが設置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・和室にもテレビを設置し、戸の開閉もでき、ご家族と過ごしたり、個人で過したりできる。・食堂テーブル以外に、ソファ、椅子は数個配置し、気の合う利用者同士が寛げるよう配慮している。・屋外でも自動販売機を設置し、休憩場があり、自由に過ごせるスペースを設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・希望にそい、ご自宅で長年愛用していた家具や時計、ラジカセ等、継続して使用するよう促している。・利用者の思いに沿い、仏壇を置き、仏壇や旧暦行事の支援も行う。・家具の配置等は、本人、家族と相談し、生活ペースに合わせて配置している。	利用者は、自宅で使い慣れた馴染みの家具や寝具等を持ち込み、仏壇やテレビ、冷蔵庫を設置している居室もある。また時計や家族写真等も飾られ、利用者が居心地良く過ごせるよう工夫している。居室ドアの小窓にはカーテンが付けられ、プライバシーに配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・転倒事故の予防に努め、移動箇所の点検、避難経路の確保等の安全を確保している。・可能な限り自立を促し、洗濯場、干場、屋外への出入り口等、自由かつ安全に使用できるよう環境整備に努めている。		